

大学院生の声：

この研究室に来て最も良かったと感じることは、研究室外でも学べる機会が多くあることです。様々なモデルの講習会やシンポジウムなどへの参加を通し、研究を行う上での視野が大きく広がったと感じています。一方で難しいと感じる点もあります。それは学生に、より主体性が求められるということです。自ら問題意識を明確にしてテーマを選定・深掘ることは思っていた以上に難しいと感じます。ですがこれこそが「研究」の醍醐味だということにも気付くことができました。

(東京工業大学 修士課程 2年生)

大学教員と公的研究機関の研究者という二つの働き方を、間近で見ることができます。その経験は、将来のキャリアを選択する上で、貴重な財産になると思います。

(東京工業大学 博士課程)

進学のかきかけ: 自分の大学院に(当時)院がなく、また環境物質に対する生体影響を調べている研究室がなかったのでネットで探して、この研究室を見つけました。連携大学院を選んだのは偶然でした。

進学して良かったこと: 大学という場所だと基本的に同じ学部出身の先生方で他学部の先生方との交流が無いですが、研究所だと同じ研究室でも全く違う学部の方が一緒に研究しているのが当たり前なので様々な技術や視点を聞くことが出来る(ききかけは自分で掘むため、交流することが大事)ことはよかったと思います。学生が少ないので積極的に聞きに行く color 色々教えてくださったりアドバイスをしてくれました。

(千葉大学先端医学薬学専攻 博士4年生卒業生)

指導教官から紹介されて国環研を知りました。専門的に深く学べる color や、研究の幅が広がる color が国環研を選んで良かったことです。

(筑波大学グローバル教育院ライフイノベーション学位プログラム卒業生)